

第2章 大町町の地域公共交通の現状

2-1 地域公共交通の現状

1 鉄道・路線バス・コミュニティバス

大町町では、ＪＲ九州が運行している佐世保線（鉄道）、祐徳バスが運行している武雄線（路線バス）、大町観光タクシーが運行しているタクシー、大町町が運行しているまちバス（コミュニティバス：運行費の国庫補助対象系統）などの公共交通が運行されています。

ＪＲ佐世保線と祐徳バス武雄線は、大町町と他市町を結ぶ広域交通の機能、まちバスは、町内の生活利便施設等を循環する地区内交通の機能を有しています。

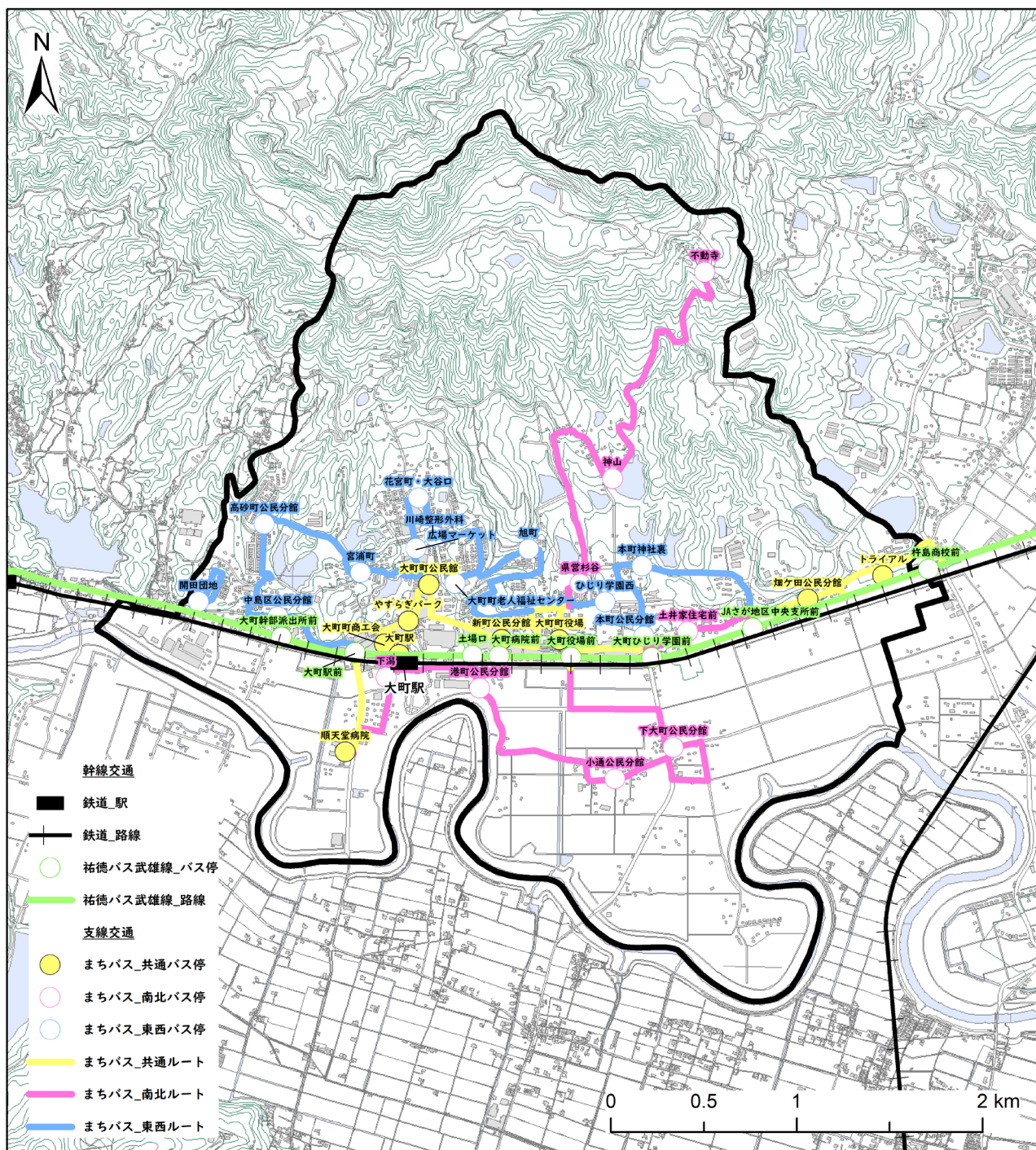


図 19 大町町公共交通網図

鉄道運行状況

鉄道は、ＪＲ佐世保線のみ通っており、肥前山口駅で長崎本線から分岐し、長崎県北部の佐世保駅まで伸びる路線となっています。町内には、大町駅の１駅を結んで運行しています。

大町駅には、上下線ともに１日１５便停車しています。

表８ ＪＲ佐世保線大町駅時刻表

時刻表（平日・休日）	
肥前山口・佐賀・鳥栖方面 （上り）	早岐・佐世保方面 （下り）
6:16	6:17
6:53	7:29
7:36	8:17
8:36	9:50
10:05	11:50
11:25	12:59
13:21	14:05
15:22	15:15
16:34	16:51
17:34	18:04
18:22	19:16
19:04	20:07
20:24	20:55
21:17	22:02
22:28	22:44
上下各 15 便	

出典：九州旅客鉄道株式会社ＨＰ（令和３年８月現在）

路線バス運行状況

路線バスは、佐賀駅から肥前山口駅、肥前山口駅から大町町を通過し武雄温泉駅を結ぶ祐徳バス武雄線が通行しています。

バス停は町内に8か所（大町幹部派出所前、大町駅前、土場口、大町病院前、大町役場前、大町ひじり学園前※、JA さが地区中央支所前、杵島商校前）あり、上下線ともに平日は14便、休日は11便運行しています。

※令和元年に大町学校前から変更

表9 祐徳バス武雄線大町駅バス停時刻表

時刻表（平日）		時刻表（休日）	
下西山車庫行	山口駅前	下西山車庫行	山口駅前
7:15	6:44	8:00	7:12
7:50	7:12	9:28	8:24
8:25	7:50	10:48	9:44
9:09	8:59	11:53	10:54
10:09	10:14	13:03	12:04
11:09	11:04	14:18	13:14
12:09	12:34	15:23	14:24
13:39	14:04	16:33	15:34
14:39	14:54	17:46	16:44
15:39	16:04	18:51	17:54
17:11	16:54	19:56	19:04
18:28	17:42	上下各 11 便	
19:22	18:42		
20:44	20:09		
上下各 14 便			

出典：祐徳自動車株式会社HP（令和3年8月現在）

コミュニティバス運行状況

コミュニティバスは、まちバスを令和３年４月から実証運行、１０月から本格運行しています。

火・水・金曜日に役場から西に回ってスーパー・トライアルに向かう「東西ルート」、月・木曜日に北端の不動寺から南に下りてトライアルに向かう「南北ルート」を運行しています。「東西ルート」、「南北ルート」共に上下各１日３便運行しています。

表１０ まちバス大町駅バス停時刻表

南北ルート 時刻表（月・木）	
トライアル行	不動寺行
9:58	11:15
12:21	13:53
14:59	16:16
上下各３便	

東西ルート 時刻表（火・水・金）	
トライアル行	大町町役場行
9:57	11:22
12:26	14:06
15:10	16:35
上下各３便	

出典：大町町ＨＰ（令和３年８月現在）

3 公共交通カバー状況

駅やバス停など、公共交通に乗車できる地点から 300m 以内にある範囲を「公共交通カバーエリア」として示しました。

下大町地区及び大谷口地区の一部エリア以外においては、網羅している状況です。

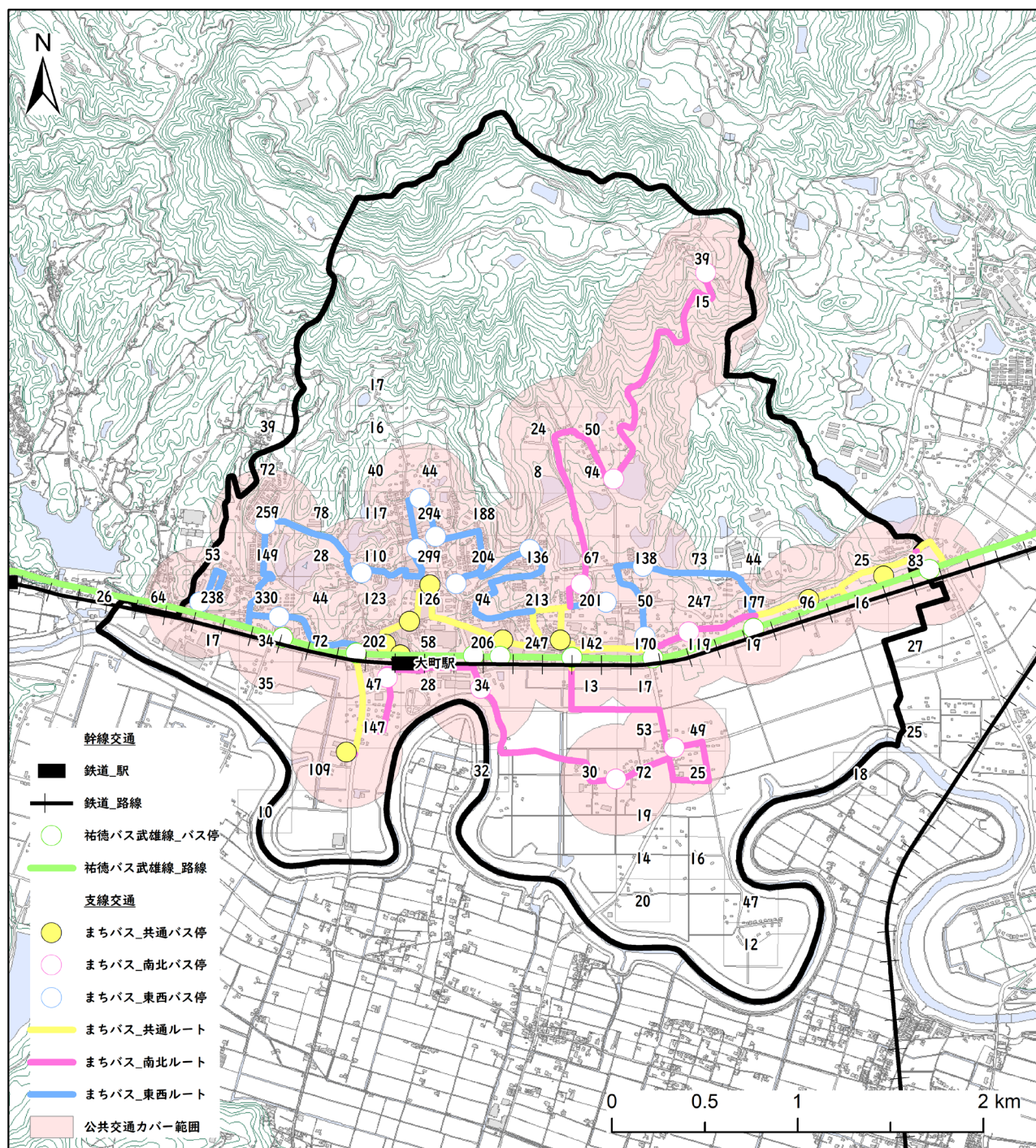


図20 公共交通カバー状況

出典：e-Stat 人口メッシュデータを用いて作成

※メッシュ内の数値は平成 27 年国勢調査における人口総数を表す

2-2 地域公共交通の利用状況

1 鉄道・路線バス・コミュニティバス

鉄道利用者数

大町町唯一の鉄道駅である大町駅の乗降人員数は年々減少しており、平成26年には乗車・降車人員ともに300人/日を下回っています。なお、平成30年以降は非公表となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年以降さらなる減少が予想されます。

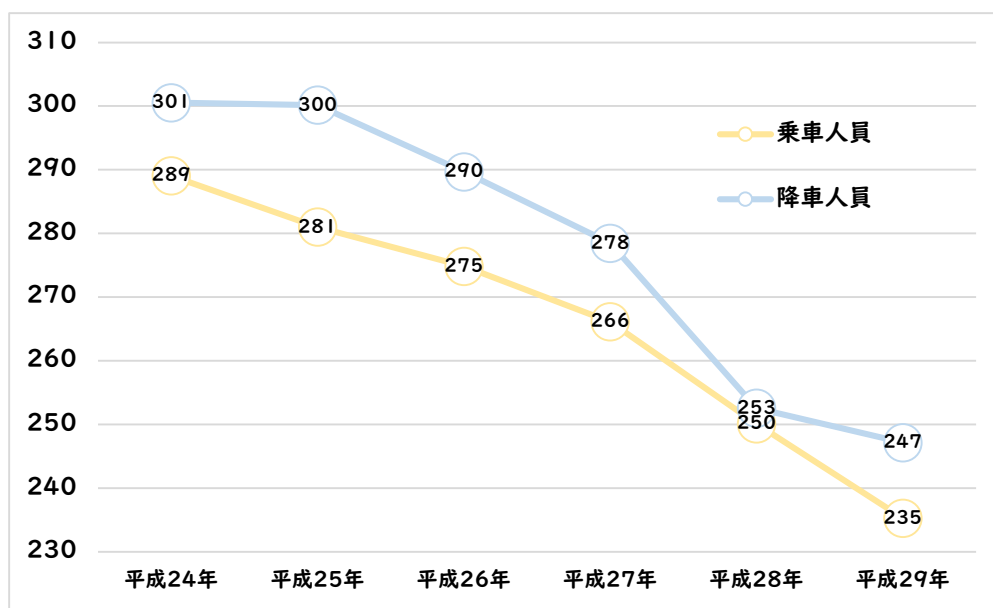


図2-1 大町駅の1日当たり乗降人員の推移

出典：佐賀県統計情報館

路線バス利用者数

大町町では国道 34 号において祐徳バス武雄線が運行しており、バス停は町内に 8 か所立地しています。

乗降人員数は平成 30 年度から令和元年度にかけて平日・休日ともに微減傾向でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響（第 1 回緊急事態宣言令和 2 年 4 月 7 日～5 月 25 日）によって、令和 2 年度 4 月の値は激減しています。令和 3 年度に回復傾向はみられますが、依然として令和元年度以前と比べて少ない状況です。

表 11 大町町内路線バスの 1 日当たり乗降人員

年度		平成 30 年度			令和元年度			令和 2 年度			令和 3 年度		
月		4 月	10 月	平均	4 月	10 月	平均	4 月	10 月	平均	4 月	10 月	平均
平日	乗車人員	66.4	53.5	60.0	62.2	47.6	54.9	12.4	43.3	27.9	43.9	24.2	34.0
	降車人員	54.2	45.6	49.9	48.8	44.1	46.5	12.7	33.4	23.1	33.9	27.7	30.8
	合計	120.6	99.1	109.9	111.0	91.7	101.4	25.1	76.7	50.9	77.7	51.8	64.8
休日	乗車人員	23.4	28.0	25.7	26.2	24.3	25.3	7.0	21.3	14.2	13.0	19.0	16.0
	降車人員	23.2	25.5	24.4	19.6	20.7	20.1	7.3	18.7	13.0	12.3	16.5	14.4
	合計	46.6	53.5	50.1	45.8	45.0	45.4	14.3	40.0	27.2	25.3	35.5	30.4

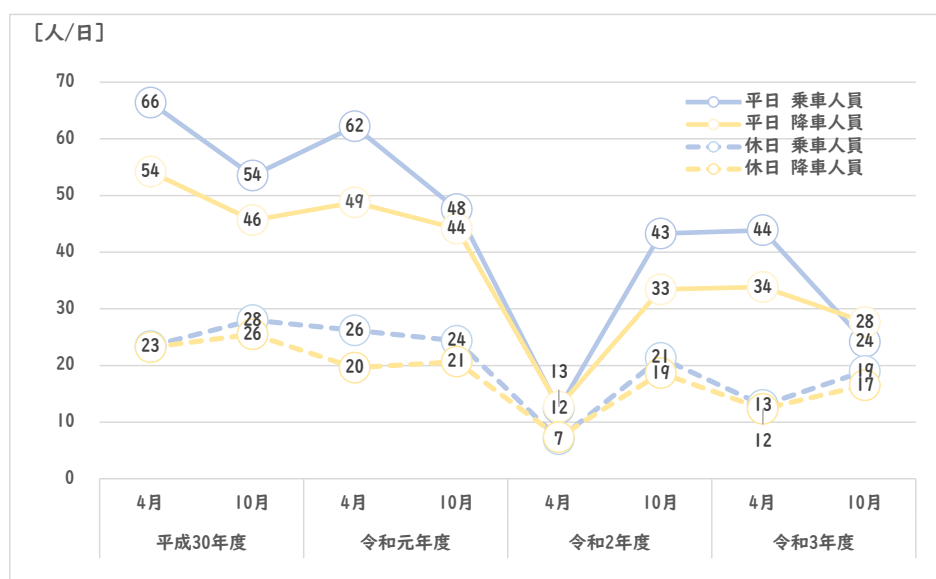


図 22 大町町内路線バスの 1 日当たり乗降人員の推移

出典：祐徳自動車株式会社

※乗降員数は、調査日（平日 5 日/休日・祝日 2～5 日）の平均値

バス停別の乗降人員数の推移をみると、令和２年度に大町駅前と杵島商校前が著しく減少しています。

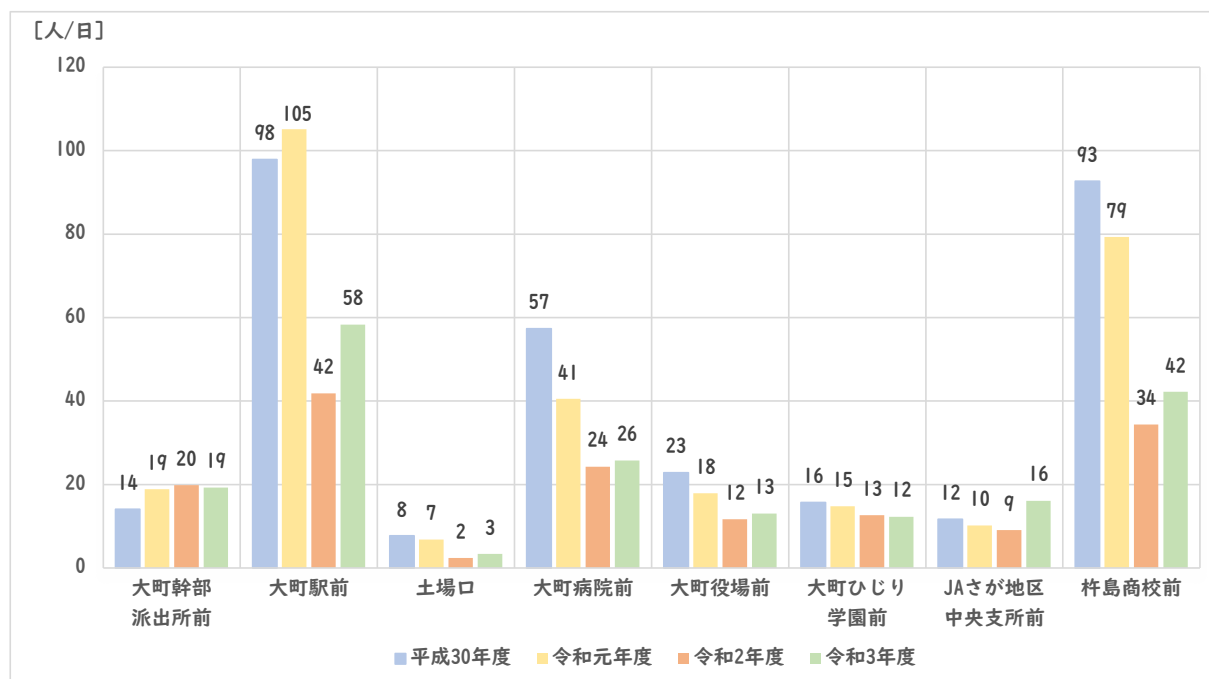


図 23 大町町内バス停の１日当たり乗降人員の推移

出典：祐徳自動車株式会社

コミュニティバス利用者数

大町町ではコミュニティバス（まちバス）が令和３年１０月から本格運行しています。南北ルート（月・木：上下各３便/日）と東西ルート（火・水・金：上下各３便/日）があり、月当たり合計で３００～５００人程度が利用しています。

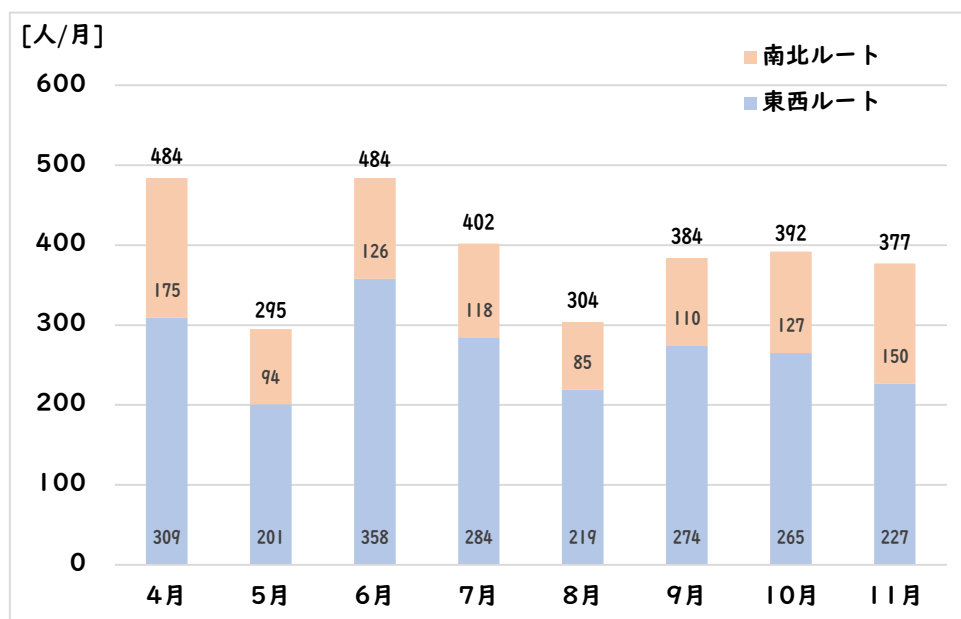


図 24 コミュニティバスの月間利用者の推移

出典：大町町企画政策課

2-3 町内の送迎サービスに関する可能性調査

大町町で送迎サービスを実施している集客施設、介護・障害福祉施設、医療施設等の事業所は16件程度あり、施設利用者を対象にしたサービスが展開されています。

各事業所に対してサービス内容の詳細、及び今後地域住民の移動手段として利活用することに関する協力意志の有無について意見照会を行いました。

このうち、数件の事業所から、地域からの要請があれば「協力に応じる意思はある」との回答を得ました。

一方、その他の事業所からは、人員確保や既存サービスの維持に対する懸念から「協力に応じることは難しい」との回答を得ました。

表 12 地域の送迎サービスアンケート結果

調査事業所数	16件					
事業所種別	集客施設、介護施設、障害福祉施設、医療施設、その他					
回答有無	・回答あり：13件 ・回答なし：3件	集客	介護	障害福祉	医療	その他
		2件	6件 2件	2件	2件 1件	1件
送迎対象者	施設利用者（介護施設においては介護保険認定者など）					
送迎日	・週1日：1件 ・週5日：2件 ・週6日：7件 ・週7日：2件 （不明票：1件）	集客	介護	障害福祉	医療	その他
		1件	1件 4件 1件	1件 1件	2件	1件
運行ルート	・運行ルートあり：3件 ・運行ルートなし（利用者に応じて対応）：10件	集客	介護	障害福祉	医療	その他
		1件 1件	6件	1件 1件	1件 1件	1件
車種	・マイクロバス（定員16～29人程度）：2台 ・ワンボックス車（定員8～15人程度）：10台 ・普通自動車（定員5～7人程度）：8台 ・軽自動車（定員1～4人程度）：9台 （不明票：1件）	集客	介護	障害福祉	医療	その他
		1台 4台	1台 4台 6台 9台	1台 1件	2台	1台
交通事業者等への委託	・委託なし：13件 ・委託あり：0件					

2-4 地域公共交通維持のための財政負担状況

大町町では、「公共交通機関としてのバス路線を確保し、地域住民の福祉の向上に寄与するため、本町が生活路線の運行を行う乗合バス（祐徳バス武雄線）事業者に対し予算の範囲内において補助金を交付する」（大町町生活交通路線維持費補助金交付要綱）こととしています。

補助額は年々増加しており、コロナ禍にあった令和2年度においては、約700万円となっています。

加えて、コミュニティバス（まちバス）の運行にあたり、令和3年度に年間約360万円を負担する見込み^{※1※2}です。

今後の持続的な地域公共交通の維持のためには、町負担額の軽減を積極的に図る必要があります。

運行の効率化に加え、地域の実情に応じて地域住民と共に考え、住民が積極的に参画する地域公共交通を目指していくことが不可欠です。

※1：令和3年11月～令和4年3月の値は実績値からの推定

※2：負担額＝費用－収益－国補助額（国からの補助は上限あり）

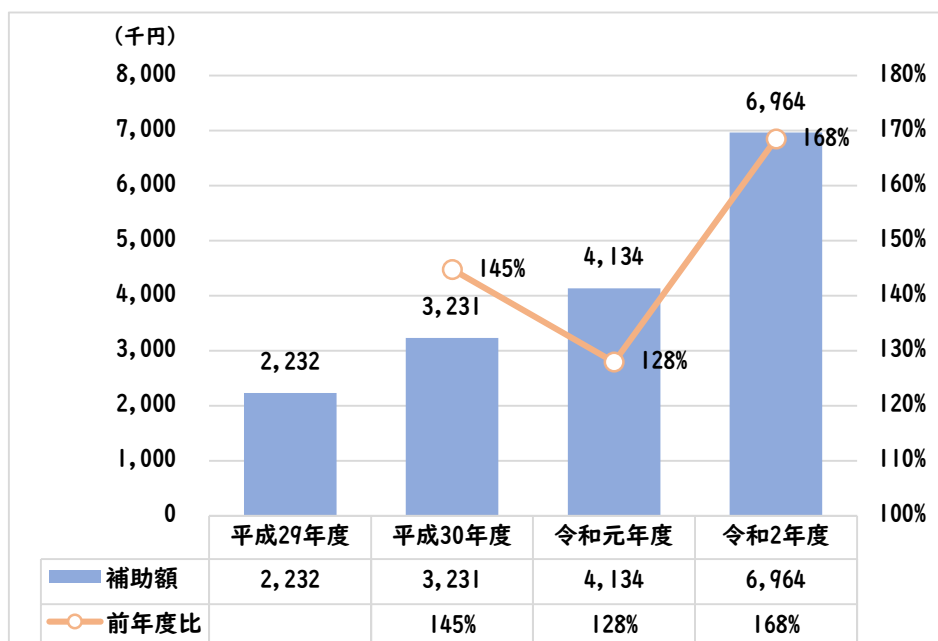


図 25 「乗合バス（祐徳バス武雄線）」事業者に対する財政負担状況

表 13 令和3年度まちバス運行における財政負担状況

項目	金額[円]	備考
収益	470,743	
運賃収入	470,743	R3.11～R4.3の値は推定値
費用	6,986,706	
委託費	6,186,543	当初委託費－運休による減額
追走費	85,937	R3.11～R4.3の値は推定値
燃料費	714,226	R3.11～R4.3の値は推定値
公的資金投入額	6,515,964	費用－収益
国補助額	2,950,000	上限額
町負担額	3,565,964	公的資金投入額－国補助額
収支率	6.7%	収益÷費用

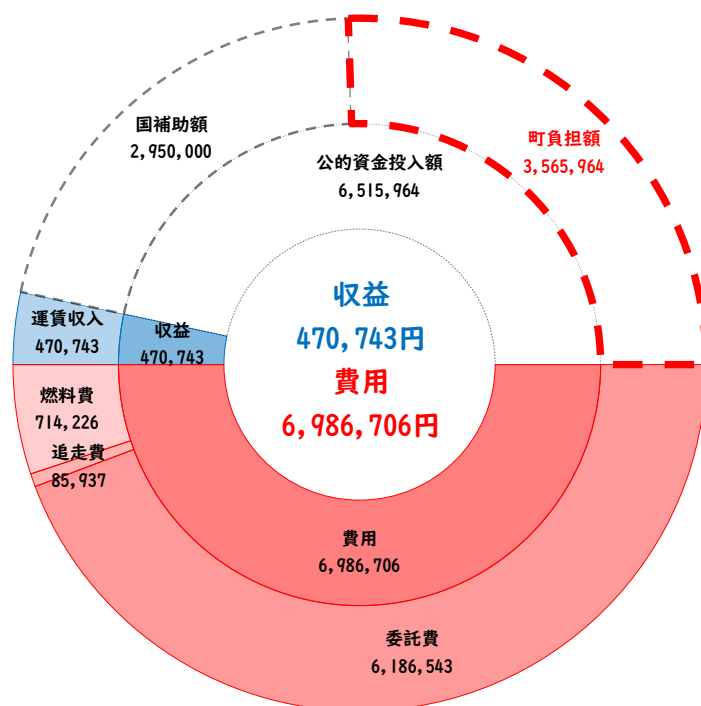


図 26 令和3年度「まちバス」運行における財政負担状況

出典：大町町企画政策課

2-5 地域公共交通に対する町民意見

公共交通に関するアンケート調査

大町町では令和元年度に、コミュニティバス（まちバス）の導入にあたり、大町町の公共交通に関するアンケートを実施しています。

その際、自由意見欄において、「町内で公共交通機関が不足していることに対する不満」や「免許返納等により運転が出来なくなった場合の移動手段の不安」等の回答が多くみられました。

加えて、鉄道・路線バス本数の増加や大町駅のバリアフリー化などの要望についても意見がありました。

表 14 令和元年度アンケートの集計（自由意見欄）

自由意見抽出	件数 (N=216)	主な意見
公共交通に対する不満	133	・ 町内の公共交通機関が不足している。
コミュニティバス導入の要望	80	・ 病院・駅・スーパーなどを回る、安価な巡回バスを運行してほしい。
移動手段に関する不安	40	・ 免許返納等により運転できなくなった場合の移動手段が不安である。
交通安全に対する要望	11	・ トライアル周辺の交通整備をしてほしい。
鉄道・路線バスに対する要望	11	・ 運行本数を増やしてほしい。 ・ 大町駅にエレベーター・エスカレーターがほしい。 ・ タクシーチケットの割引券がほしい。
その他	86	・ 移動販売車などがあれば助かる。

まちバスに関するアンケート調査

令和3年10月から本格運行している大町町のコミュニティバス（まちバス）の乗客に対して、アンケート調査を実施し、まちバスに対する意見・要望及び、次世代輸送サービスに関する興味・関心について伺いました。

「時刻表通りの運行」に関する要望が多く、次世代輸送サービスに関しては全体としては関心がないという結果でしたが、「自動運転のバス」や「地域を巡回する低速の小型バス（GSM）」に対する関心が数件得られました。

その他の意見としては、「土日でもまちバスを運行してほしい」との要望がありました。

居住地	
寺口	20%
上大町	13%
大谷口	7%
高砂	7%
中島(開田団地)	7%
京ノ尾団地	7%
磯路町	7%
千場団地	20%
泉町	7%
本通	7%

性別	
女	87%
男	13%

年齢	
50代	7%
60代	7%
70代	60%
80歳以上	27%

自家用車の保有有無	
持っていない	93%
持っている	7%

運転免許の保有有無	
持っていない	87%
持っている	13%

乗車停留所	
トライアル	20%
花宮町	7%
開田団地	7%
高砂町公民館	7%
新町公民分館	7%
川崎整形	7%
大町公民館	7%
大町商工会	7%
大町町役場	13%
中島区公民館	13%
土井家住宅前	7%

降車停留所	
トライアル	60%
やすらぎパーク	7%
県営杉谷	7%
新町公民館	7%
大町駅	7%
中島地区公民館	7%
土井家	7%

最終目的地	
トライアル	80%
自宅	7%
大町駅周辺	7%

利用目的	
帰宅	7%
私用	7%
通院	7%
通勤	7%
買い物	73%

利用頻度	
月に1回	13%
月に2～3回	20%
週に1回	47%
週に3回以上	20%

まちバスの課題・意見・要望	
時刻表通りに運行されている	73%
手頃な料金で利用できる	67%
他の交通機関との乗り換えがしやすい	67%
運行頻度(便数)が多い	60%
車内が快適である(清潔、座れる)	67%
感染症対策が充実している	67%
乗り降りがしやすい(バリアフリー化)	67%
魅力ある車両(最新車両など)である	67%
案内(ルート、遅延情報等)が充実している	60%
待合所にベンチ、屋根が設置されている	60%

次世代輸送サービスに関する興味・関心	
サブスク(定額料金)で乗り放題	0%
キャッシュレス(QRコードやタッチ式)決済	0%
スマホやタブレットで、タクシー等の予約ができるサービス	0%
スマホやタブレットで、バスがどこを走っているかリアルタイムで確認できるサービス	0%
自動運転のバス	7%
地域を巡回する低速の小型バス	13%
自宅と駅・バス停を繋ぐ低速の小型車	0%
自宅と駅・バス停を繋ぐ自動運転の車椅子	0%
自宅まで食料などを届けてくれるサービス	0%
町内で利用できるカーシェアリング	0%

図 27 まちバスに関するアンケート調査 結果概要

第3章 大町町の地域公共交通の課題

大町町は、年々人口が減少し、高齢化率（人口に占める高齢者の割合）が増加しており、今後はその傾向が加速する見込みです。また、自動車から地域公共交通への転換を目的とした様々な施策を実施していますが、町内外の主たる移動手段として、自動車（自家用車）による移動の割合が依然として高い状態にあります。

そのような中、「大町町第5次総合計画」をはじめとした各種計画で、今後の人口減少・少子高齢化の進行、地域産業を取り巻く状況の悪化を踏まえ、住民・地域・行政などが連携・協力しながら、課題解決に向けて町が一体となって取り組む新たなまちづくりを進めています。

加えて、SDGs（持続可能な開発目標）の目標に示される多様な項目の追及が、地域における諸課題の解決に貢献し、地方創生を推進するものであることから、大町町においてもSDGsを意識し、持続可能な地域づくりを目指しています。

以上のように、大町町の現状と町が目指すまちづくりの方針等を踏まえ、大町町の地域公共交通の課題として、以下の3点を整理しました。

課題Ⅰ：利用者が満足する公共交通の提供

大町町の広域交通を担っているJR佐世保線は、住民ニーズに比して運行本数が少ないなど、町民の要望を満たしていない状況にあります（大町町第5次総合計画より）。

また、第2期総合戦略の策定にあたって実施した住民アンケートでは、大町町に住みたくない理由として第1位に「買い物の便が悪い」、第2位に「道路・交通の便が悪い」という回答が多く占めるなど、町民の移動に対する満足度は低い状況にあります。

このような状況から各種計画においては、「快適な暮らし」や「暮らしやすい地域」等に向けたまちづくりの方針・目標が示されています。

さらに、令和元年度にコミュニティバス（まちバス）の導入にあたり実施したアンケートでは、「町内の公共交通機関が不足している」や、「JR・路線バスの運行を増やしてほしい」など、既存の公共交通に対する不満意見が多く寄せられています。まちバスの導入により一部解消されていると思われますが、引き続き公共交通に対する不満解消の対策は不可欠です。

なお、高齢ドライバーによる交通事故防止を目指し、運転免許証返納者に対する移動支援制度を実施していますが、免許証返納の促進にあたっては、公共交通に対する満足度の向上が不可欠です。

以上を踏まえ、「利用者が満足する公共交通の提供」を検討していく必要があります。

課題２：公共交通の利用促進

大町町は、他の地方自治体と同じく人口減少・少子高齢化の状況にあり、地域の活力・にぎわいの低下が危惧されています。

大町町唯一の鉄道駅である大町駅の乗降人員数は、かつては 600 人/日を超えていましたが、平成 29 年には 500 人/日を下回り、平成 30 年以降は乗降人員数非公表の状況となっています。

また、ＪＲ佐世保線と共に大町町の広域交通を担っている祐徳バス武雄線は、モータリゼーションの進展及び、依然とした自動車依存度の高さによる利用者の減少等から、路線廃止を迫られている状況にあります。これらの問題は、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、悪化しています。

このような状況から各種計画においては、「にぎわいと活力ある地域」や「活力ある働きやすいまち」等に向けたまちづくりの方針・目標が示されています。

なお、地域内の日常的な移動手段となるコミュニティバス（まちバス）を令和 3 年 4 月から実証運行、10 月から本格運行していますが、人口減少等による行政の財政状況が悪化している状況下において引き続き運行を継続していくためには、公共交通利用者の増加が不可欠です。

以上を踏まえ、「公共交通の利用促進」を検討していく必要があります。

課題３：持続可能な公共交通の実現

人口の減少や経済成長の低下に伴う税収の減少、福祉などの社会保障費の増大などから、大町町の財政運営は今後も厳しい状況が続くことが見込まれています。

大町町では生活路線の運行を行う乗合バス（祐徳バス武雄線）事業者に対し補助金を交付しており、その額は年々増加しています。

また、令和 3 年度から本格運行している大町町のコミュニティバス（まちバス）は、運行費用に対する収益（収支率）が 10%に満たないなど、その多くが国や町からの公的資金投入により賄っています。

このような状況から各種計画においては、「持続可能な地域」や「ずっと暮らせる住みよいまち」等に向けたまちづくりの方針・目標が示されています。

さらに、大町町においてはＳＤＧｓを意識した持続可能な地域づくりを目指しています。

以上を踏まえ、「持続可能な公共交通の実現」を検討していく必要があります。

表 15 大町町の公共交通に関する現況と課題

現況（主な問題）	課題
・ 住民ニーズに比して JR・路線バスの運行本数が少ない ・ 町内の公共交通機関が不足（まちバスの導入により一部解消）	利用者が満足する公共交通の提供
・ 町内公共交通（JR 佐世保線、祐徳バス武雄線、大町観光タクシー）の利用者減少 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者激減	公共交通の利用促進
・ 乗合バス（祐徳バス武雄線）に対する補助金の増加 ・ まちバスの運行による資金投入の増加	持続可能な公共交通の実現